七夕のお話（中）

みなさん、こんにちは。今日は「七夕」のお話です。

７月７日の夜は､天の川をはさんでいつも離ればなれの｢ひこ星」と「おり姫」が、年に１度だけ会うことができる日です。

今日は、七夕の過ごし方をお話しします。笹の葉に、願い事を書いた短冊を飾り付けましょう。これは、習い事をする人や寺子屋で学ぶ子どもが増えた江戸時代から始まりました。まじめで働き者の青年「ひこ星」と、織物の上手な「おり姫」にあやかり、習い事の上達や、将来の夢をお願いしたり､「おり姫」や「ひこ星」のように「よい出会いがありますように」と願いをこめたりして、短冊を書きます。

今日は、七夕をイメージした「七夕汁」です。星の形に見立てたかまぼこやオクラを輪切りにしたもの、月のように丸いうずら卵が入っています。また、春日井市でとれたサボテンを練りこんだサボテンきしめんは、天の川を表しています｡「ひこ星」と「おり姫」の願いと、皆さんの願いがかないますように。